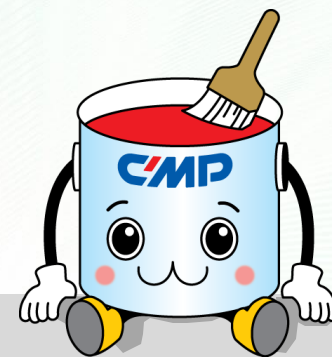


# 2019年度（2020年3月期） 第1四半期 決算説明資料

2019年7月31日

証券コード：4617

**CMP** 中国塗料株式会社



当社キャラクター  
「ペンタロウ」

# 目次

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| <b>1. 連結決算概要</b>     | <b>P3～P10</b>  |
| <b>2. 地域別・分野別の概況</b> | <b>P11～P18</b> |
| <b>3. 通期の見通し</b>     | <b>P19～P23</b> |
| <b>4. 参考資料</b>       | <b>P24～P32</b> |

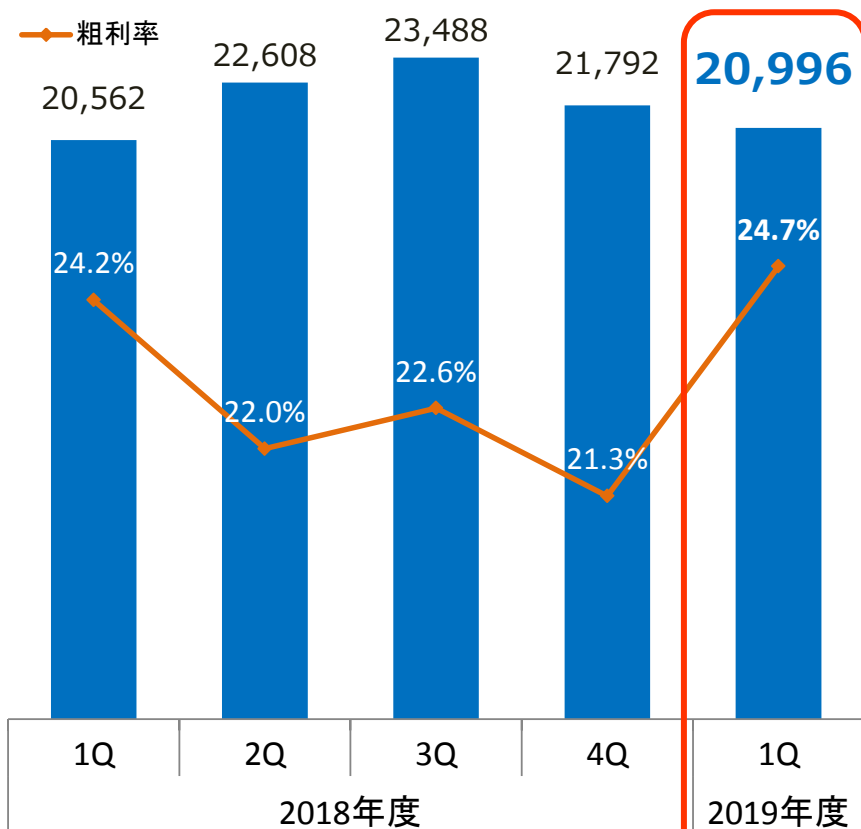
※当資料の表やグラフに記載している数値の単位は、別途単位の表記がない限り百万円となります。

# 1. 連結決算概要

- ✓ 前年同期比で**増収増益**を達成し**黒字転換**
- ✓ 船舶用塗料が好調、コンテナ用塗料の不振をカバー

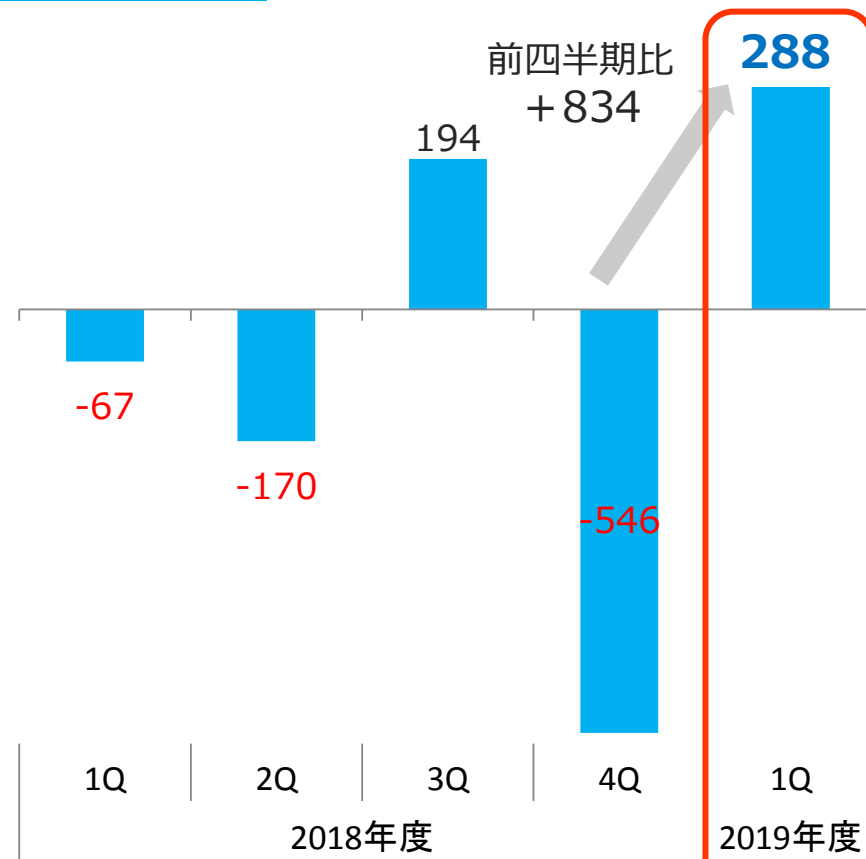
## 売上高

前年同期比2.1%増



## 営業利益

前年同期比355百万円増



- 船舶用塗料が連結業績を牽引、コンテナ用塗料は大幅減収かつ採算悪化
- 原材料価格が軟化基調となる中、購買手法の見直しも奏功し調達コストが低下  
採算管理の強化もあり、粗利率が0.5ポイント上昇
- 各種引当金繰入額を中心に販管費が減少、売上高販管費比率は1.2ポイント低下
- 損失を計上した海外子会社で税効果を認識できず、連結上は利益水準に対して多額の税金費用を計上（約2.7億円）

	2018年度 1Q		2019年度 1Q		増減額	増減率
売上高	20,562	100.0%	<b>20,996</b>	100.0%	+434	+2.1%
売上総利益	4,979	24.2%	<b>5,183</b>	24.7%	+204	+4.1%
販売管理費	5,046	24.5%	<b>4,894</b>	23.3%	-151	-3.0%
営業利益	△67	△0.3%	<b>288</b>	1.4%	+355	—
経常利益	△95	△0.5%	<b>399</b>	1.9%	+495	—
税金等調整前当期純利益	△112	△0.5%	<b>403</b>	1.9%	+516	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△286	△1.4%	<b>55</b>	0.3%	+341	—

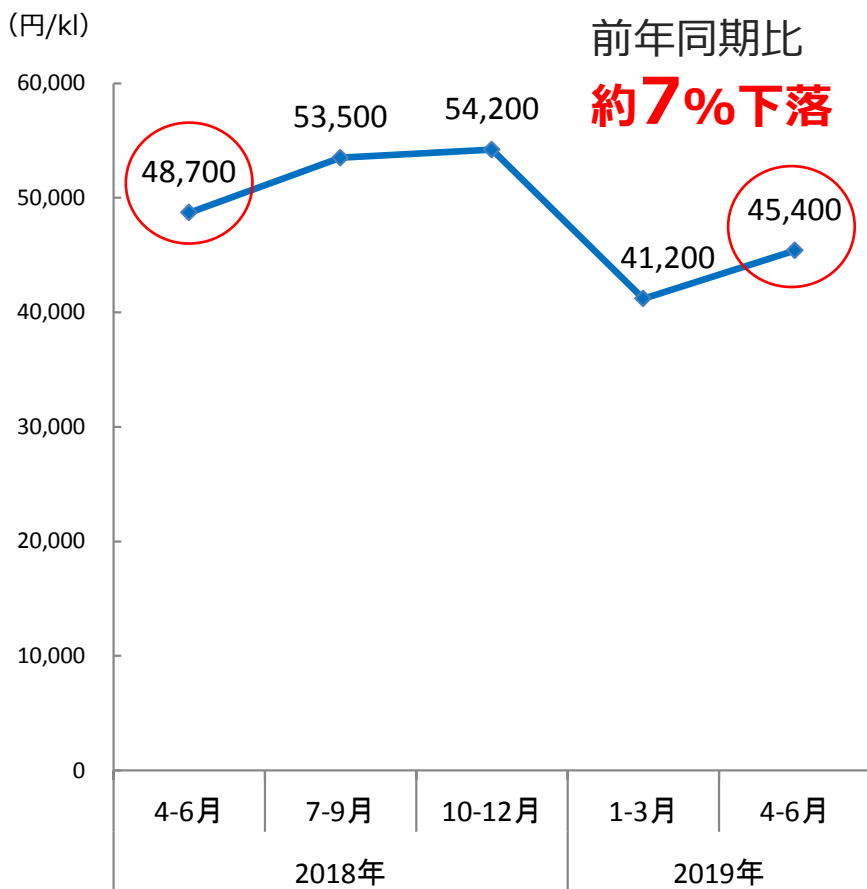
	2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減額	増減率
減価償却費	416	<b>492</b>	+76	+18.3%
研究開発費	468	<b>445</b>	-23	-5.0%
国産ナフサ価格 (円/kl)	48,700	<b>45,400</b>	-3,300	-6.8%

## ◆為替レート (単位：円)

米ドル	108.30	<b>110.20</b>	+1.90	+1.8%
ユーロ	133.22	<b>125.15</b>	-8.07	-6.1%
人民元	17.05	<b>16.33</b>	-0.72	-4.2%
ウォン	0.1011	<b>0.0980</b>	-0.00	-3.1%

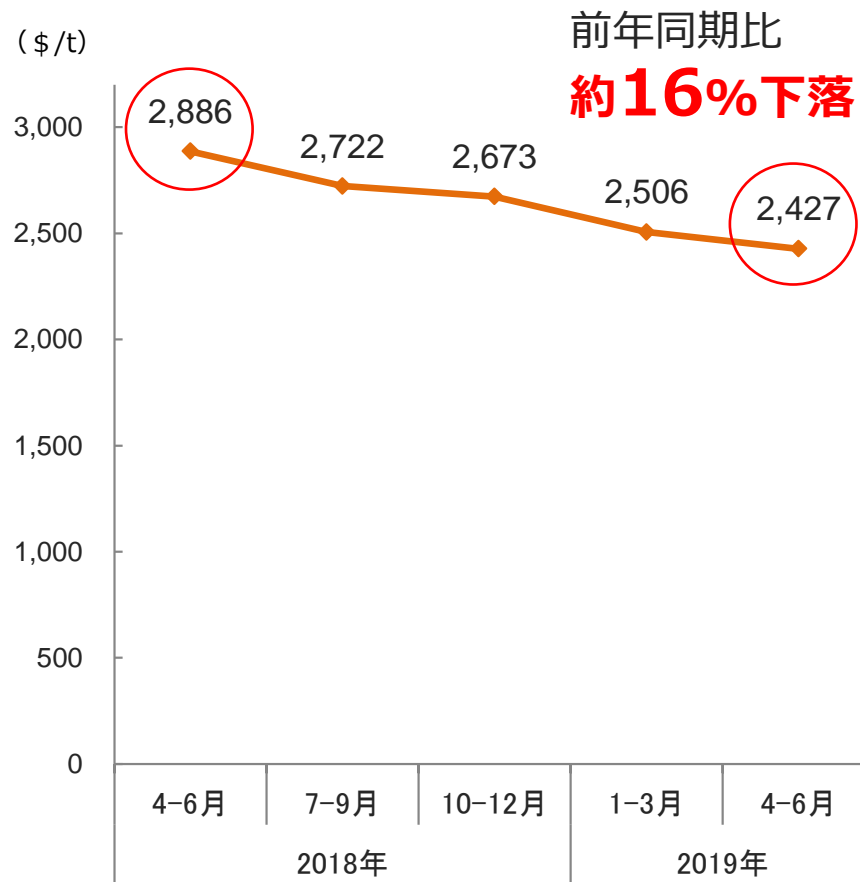
※2019年度第1四半期の増収額4.3億円のうち為替要因は-3.7億円程度

## 国産ナフサ



出所：財務省

## エポキシ樹脂



出所：ICIS

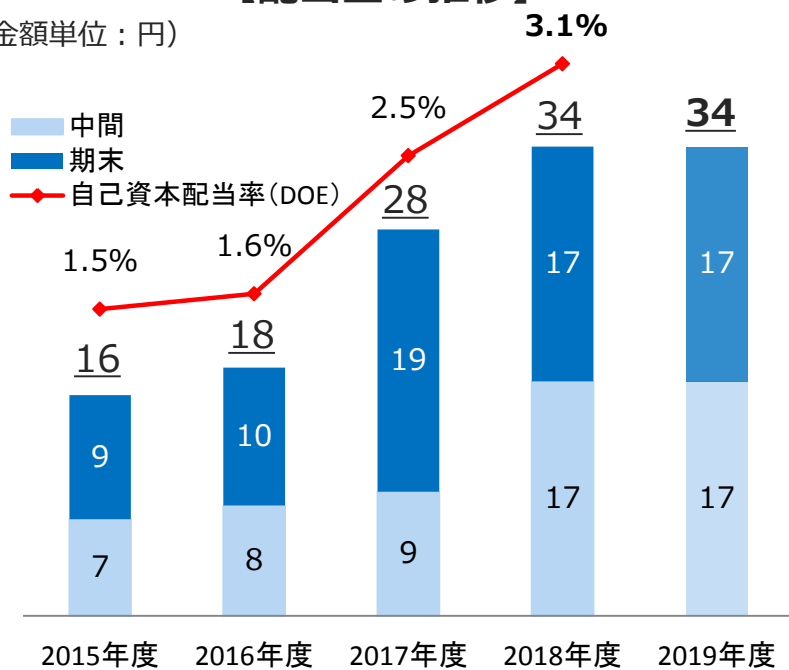
## 中期経営計画における株主還元方針と実績

### 配 当

自己資本配当率**3%**かつ  
連結配当性向**30%**を下回らない  
水準で実施

#### 【配当金の推移】

(金額単位：円)



配当性向	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度 (予想)
	16.3%	32.4%	74.9%	—	206.4%

### 自己株式取得

2020年度までの3年間で  
**100~150億円**の機動的な  
自己株式取得を実施

#### 【自己株式の取得状況】

2019年度は25億円の取得枠を設定  
(2019年5月10日から1年間)

2018年度 (通期)	取得金額	50.0億円
	期末残高	66.9億円
2019年度 (1Q)	取得金額	4.2億円
	期末残高	71.1億円
	取得枠残	20.8億円

# 連結貸借対照表の概要

	2018年度末	2019年度 1Q末	増減額	主な変動要因
流動資産	79,556	<b>77,032</b>	<b>-2,524</b>	現預金 - 3,691 商品及び製品 + 659 受取手形及び売掛金 + 475
有形固定資産	25,586	<b>27,009</b>	+1,423	その他 + 1,665 (主にリース資産)
無形固定資産	1,341	<b>639</b>	-701	
投資その他の資産	7,366	<b>6,892</b>	-474	投資有価証券 - 291
<b>資産合計</b>	<b>113,851</b>	<b>111,573</b>	-2,277	
流動負債	39,065	<b>38,053</b>	-1,011	短期借入金 - 1,044
固定負債	6,271	<b>6,855</b>	+583	その他 + 531 (主にリース債務)
<b>負債合計</b>	<b>45,337</b>	<b>44,909</b>	-428	
<b>純資産合計</b>	<b>68,514</b>	<b>66,664</b>	<b>-1,849</b>	自己株式(増加) - 423 利益剰余金 - 976
<b>現預金</b>	<b>29,209</b>	<b>25,517</b>	<b>-3,691</b>	
<b>自己資本比率</b>	<b>55.7%</b>	<b>55.5%</b>	-0.2pt	

	2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減額	主な変動要因
営業活動による キャッシュ・フロー	487	<b>△622</b>	-1,109	税金等調整前当期純利益+516 売上債権の変動-1,490
投資活動による キャッシュ・フロー	△583	<b>384</b>	+968	定期預金の変動+1,008
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,027	<b>△3,136</b>	-108	自己株式の取得+1,204 借入金の変動-988 子会社の自己株式の取得-520
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△574	<b>246</b>	+821	
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	△3,697	<b>△3,126</b>	+570	
現金及び現金同等物の 期首残高	25,279	<b>20,799</b>	-4,480	
現金及び現金同等物の 期末残高	21,582	<b>17,672</b>	-3,909	

## 2. 地域別・分野別の概況

新造船が好調な韓国で大幅増収

中国では新造船が拡大する一方、コンテナが需要低迷により大幅縮小し減収

新造船の採算性改善が進んだ日本と韓国で大きく増益

		日本	中国	韓国	東南 アジア	欧州・ 米国	調整	合計
2018年度 1Q	売上高	9,131	4,871	925	2,801	2,831	-	20,562
	セグメント 利益	64	△361	△272	314	△178	367	△67
2019年度 1Q	売上高	<b>9,005</b>	<b>4,262</b>	<b>1,596</b>	<b>3,044</b>	<b>3,087</b>	-	<b>20,996</b>
	増減率	-1.4%	-12.5%	+72.4%	+8.7%	+9.0%	-	+2.1%
	セグメント 利益	<b>341</b>	△451	△42	<b>367</b>	△314	<b>387</b>	<b>288</b>
	増減額	+277	-89	+230	+53	-135	+20	+355

		日本	中国	韓国	東南 アジア	欧州・ 米国	合計
船 舶	2018年度1Q	7,366	1,881	907	1,455	2,674	14,285
	<b>2019年度1Q</b>	<b>7,394</b>	<b>2,901</b>	<b>1,581</b>	<b>1,599</b>	<b>3,006</b>	<b>16,483</b>
	増減率	+0.4%	+54.2%	+74.3%	+9.9%	+12.4%	+15.4%
工 業	2018年度1Q	1,687	173	18	1,168	93	3,141
	<b>2019年度1Q</b>	<b>1,533</b>	<b>245</b>	<b>14</b>	<b>1,267</b>	<b>43</b>	<b>3,104</b>
	増減率	-9.1%	+41.7%	-20.6%	+8.4%	-53.8%	-1.2%
コンテナ	2018年度1Q	-	2,816	-	177	64	3,085
	<b>2019年度1Q</b>	<b>-</b>	<b>1,115</b>	<b>-</b>	<b>177</b>	<b>38</b>	<b>1,330</b>
	増減率	-	-60.4%	-	+0.2%	-40.3%	-56.5%
その他	2018年度1Q	77	-	-	-	-	77
	<b>2019年度1Q</b>	<b>77</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>-</b>	<b>77</b>
	増減率	+0.6%	-	-	-	-	+0.6%
合 計	2018年度1Q	9,131	4,871	925	2,801	2,831	20,562
	<b>2019年度1Q</b>	<b>9,005</b>	<b>4,262</b>	<b>1,596</b>	<b>3,044</b>	<b>3,087</b>	<b>20,996</b>
	増減率	-1.4%	-12.5%	+72.4%	+8.7%	+9.0%	+2.1%

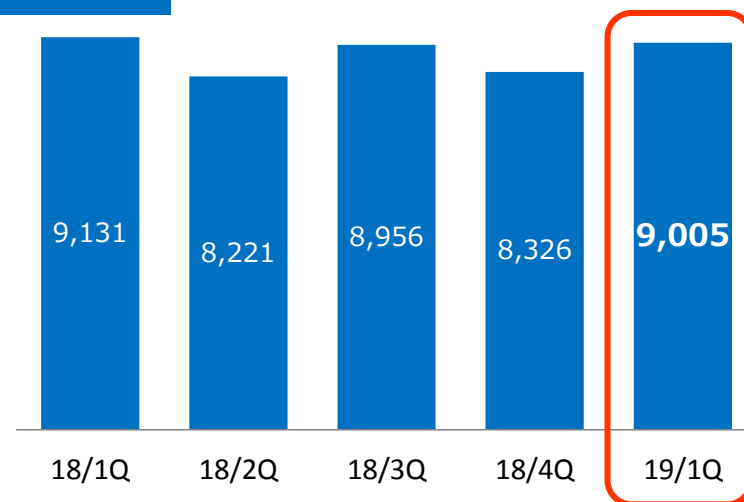
		2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減 <sup>※1</sup>
船舶	新造船	4,272	4,309	+0.9%
	修繕船	2,557	2,536	-0.8%
	PB等 <sup>※2</sup>	537	548	+2.1%
		7,366	<b>7,394</b>	+0.4%
工業	建材	1,048	927	-11.5%
	重防食	639	605	-5.2%
		1,687	<b>1,533</b>	-9.1%
コンテナ		-	-	-
その他		77	77	+0.6%
売上高		9,131	<b>9,005</b>	-1.4%
セグメント利益		64	<b>341</b>	+277

※1.売上高は増減率、セグメント利益は増減額

※2.プレジャーボート、漁船、漁網等

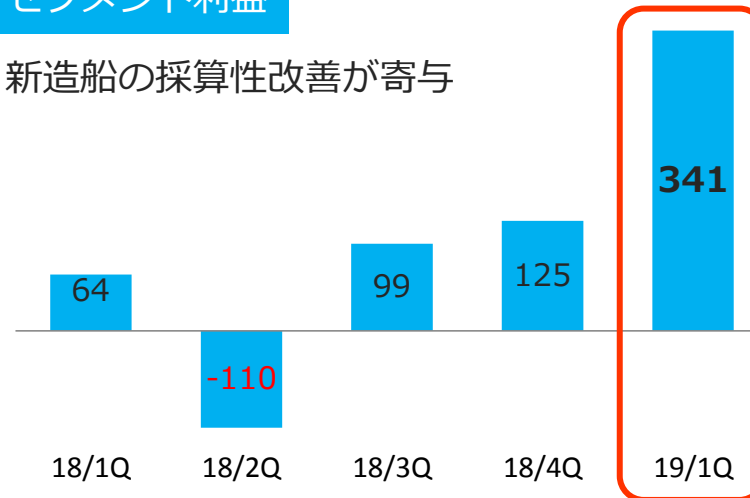
## 四半期業績推移

売上高 前四半期比では船舶・工業共に増収



## セグメント利益

新造船の採算性改善が寄与



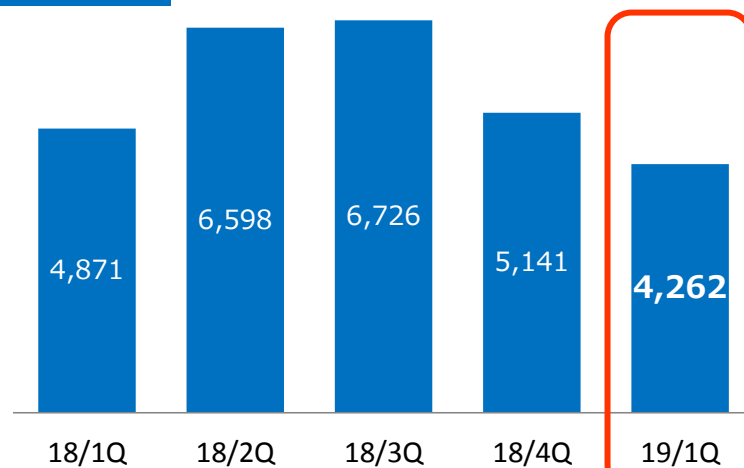
		2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減 <sup>※1</sup>
船舶	新造船	1,200	1,959	+63.3%
	修繕船	681	942	+38.2%
	PB等 <sup>※2</sup>	-	-	-
		1,881	<b>2,901</b>	+54.2%
工業	建材	-	-	-
	重防食	173	245	+41.7%
		173	<b>245</b>	+41.7%
コンテナ		2,816	<b>1,115</b>	-60.4%
その他		-	-	-
売上高		4,871	<b>4,262</b>	-12.5%
セグメント利益		△361	<b>△451</b>	-89

※1.売上高は増減率、セグメント利益は増減額

※2.プレジャーボート、漁船、漁網等

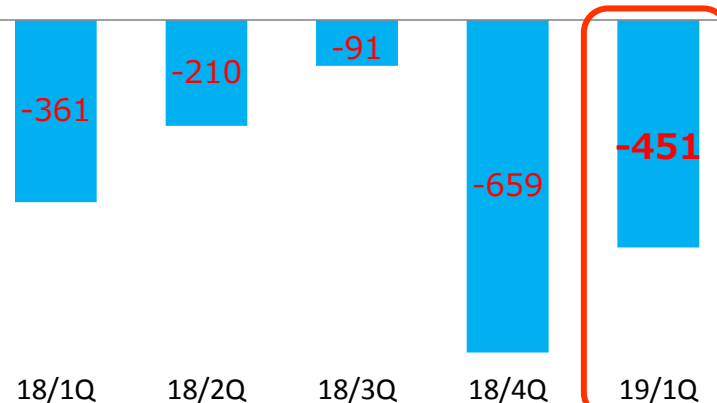
## 四半期業績推移

売上高 船舶は回復、コンテナは需要低迷



セグメント利益

コンテナが価格競争激化により大幅に採算悪化



		2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減 <sup>※1</sup>
船舶	新造船	703	1,326	+88.7%
	修繕船	204	255	+25.0%
	PB等 <sup>※2</sup>	-	-	-
		907	<b>1,581</b>	+74.3%
工業	建材	-	-	-
	重防食	18	14	-20.6%
		18	<b>14</b>	-20.6%
コンテナ		-	-	-
その他		-	-	-
売上高		925	<b>1,596</b>	+72.4%
セグメント利益		△272	△ <b>42</b>	+230

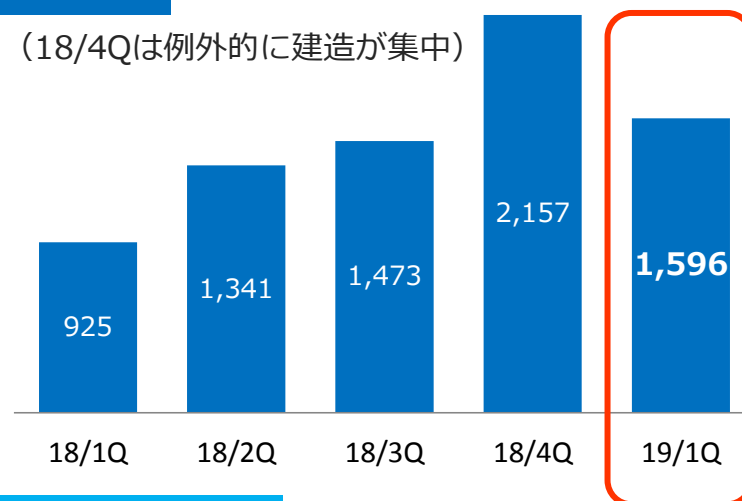
※1.売上高は増減率、セグメント利益は増減額

※2.プレジャーボート、漁船、漁網等

## 四半期業績推移

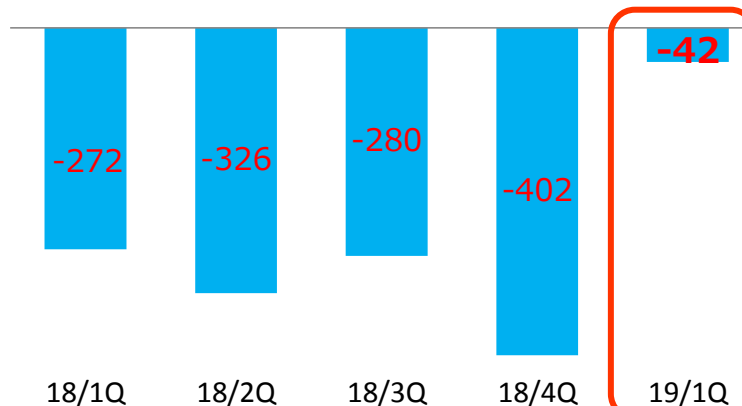
売上高 新造船が順調に回復

(18/4Qは例外的に建造が集中)



セグメント利益

原材料コスト低下や不採算案件の減少で収益改善



		2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減 <sup>※1</sup>
船舶	新造船	39	43	+9.1%
	修繕船	1,416	1,481	+4.6%
	PB等 <sup>※2</sup>	-	75	-
		1,455	<b>1,599</b>	+9.9%
工業	建材	102	126	+23.6%
	重防食	1,066	1,141	+7.0%
		1,168	<b>1,267</b>	+8.4%
コンテナ		177	<b>177</b>	+0.2%
その他		-	-	-
売上高		2,801	<b>3,044</b>	+8.7%
セグメント利益		314	<b>367</b>	+53

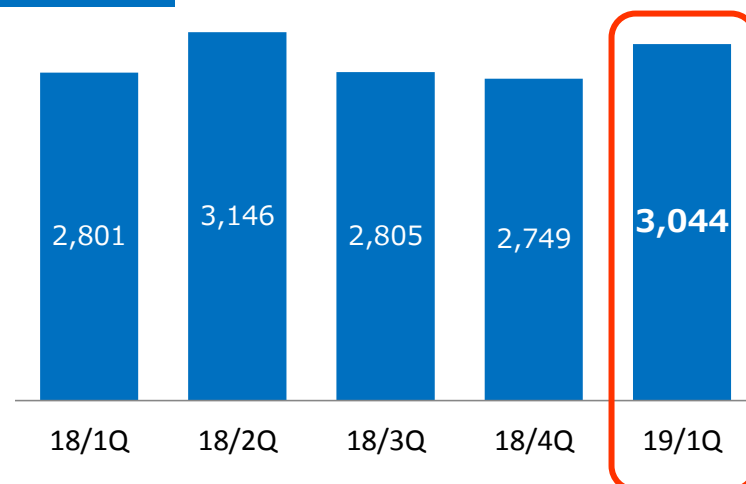
※1.売上高は増減率、セグメント利益は増減額

※2.プレジャーボート、漁船、漁網等

## 四半期業績推移

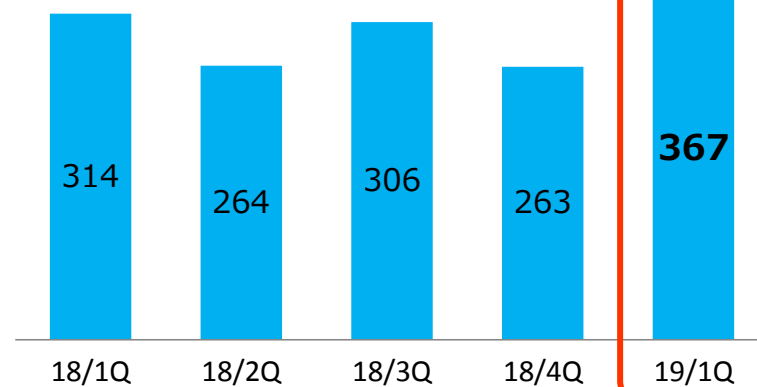
### 売上高

船舶はシンガポール、工業はタイが好調



### セグメント利益

船舶、工業ともに収益性が向上



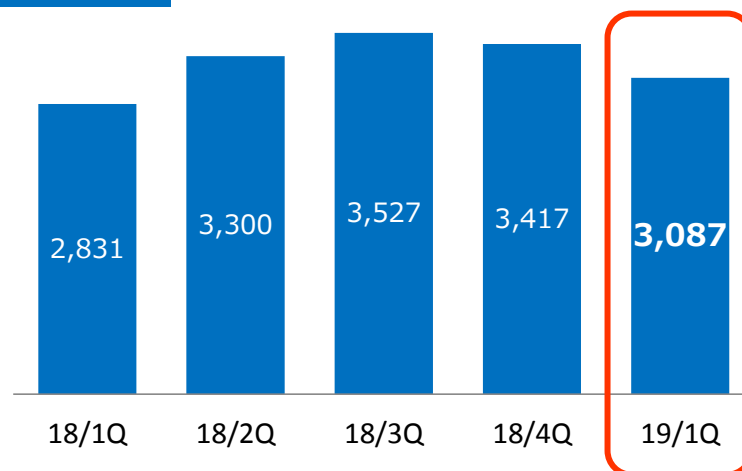
		2018年度 1Q	2019年度 1Q	増減 <sup>※1</sup>
船舶	新造船	27	73	+167.7%
	修繕船	2,383	2,712	+13.8%
	PB等 <sup>※2</sup>	263	220	-16.4%
		2,674	<b>3,006</b>	+12.4%
工業	建材	-	-	-
	重防食	93	43	-53.8%
		93	<b>43</b>	-53.8%
コンテナ		64	<b>38</b>	-40.3%
その他		-	-	-
売上高		2,831	<b>3,087</b>	+9.0%
セグメント利益		△178	△ <b>314</b>	-135

※1.売上高は増減率、セグメント利益は増減額

※2.プレジャーボート、漁船、漁網等

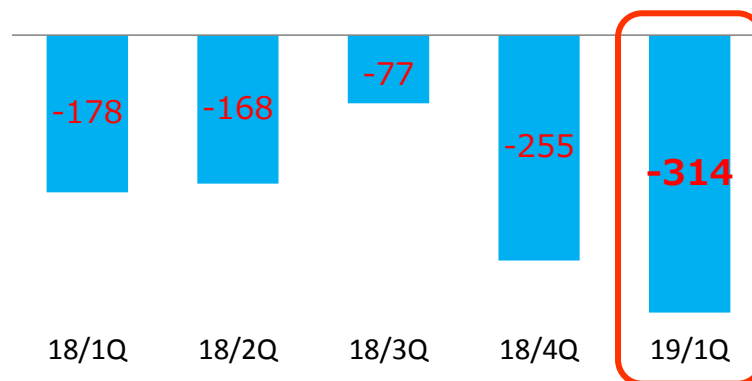
## 四半期業績推移

売上高 欧州の修繕船が好調



セグメント利益

他地域で納入する欧州船主案件の営業コストが増加



# 3. 通期の見通し

船舶用が牽引し、売上高は3期連続の増収となる見通し

全ての利益項目で大幅増益を予想、全般的に前年度比で収益性の改善を見込むも、中国のコンテナは価格競争激化により採算が悪化すると想定

原材料価格は通年平均では前年度を下回ると予想

ただし、短期的には大きく変動する可能性もあるため、業績予想は通期のみ開示

	2018年度実績	2019年度予想	増減額
売上高	88,452	<b>90,000</b>	+1,547
営業利益	△588	<b>1,500</b>	+2,088
経常利益	△170	<b>1,700</b>	+1,870
税金等調整前 当期純利益	390	<b>1,700</b>	+1,309
親会社株主に帰属する 当期純利益	△710	<b>1,000</b>	+1,710

船舶は、SOx規制対応に伴う修繕船向けの需要が拡大するとともに新造船向けも堅調に推移すると予想

韓国は新造船が復調し二桁増収を見込む

中国ではコンテナの価格競争激化に伴う受注抑制により減収となる見通し

	2018年度 通期実績	2019年度 通期予想	増減率
船舶	63,831	<b>67,800</b>	+6.2%
工業	12,575	<b>12,880</b>	+2.4%
コンテナ	11,721	<b>9,000</b>	-23.2%
その他	323	<b>320</b>	-1.0%

日本	34,636	<b>35,000</b>	+1.0%
中国	23,337	<b>22,000</b>	-5.7%
韓国	5,898	<b>6,900</b>	+17.0%
東南アジア	11,502	<b>12,600</b>	+9.5%
欧州・米国	13,076	<b>13,500</b>	+3.2%

## 営業

- ✓ 修繕船に注力、戦略的製品を拡販
- ✓ 低採算案件の受注抑制（特に新造船とコンテナ）
- ✓ 客船（クルーズ船）及びLNG船案件の開拓
- ✓ 東南アジアのインフラ需要の取り込み
- ✓ 洋上風力発電を含む海洋構造物分野の拡大

## 技術・生産

- ✓ 環境対応を含む高付加価値塗料・高性能塗料の開発
- ✓ 船舶・工業両分野の市場開拓に向けた各種認証の取得
- ✓ グローバルな最適生産体制構築に向けた具体的計画を策定

## 資材・管理

- ✓ 原材料価格の変動に応じた調達手法の多様化を推進
- ✓ 海外子会社管理を強化



[www.cmp.co.jp](http://www.cmp.co.jp)

本資料における見通しは、2019年7月31日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

## 4. 参考資料

社名	中国塗料株式会社 Chugoku Marine Paints, Ltd.
創業	1917（大正6）年5月（創業102年）
資本金	11,626 百万円
代表者	代表取締役社長 植竹 正隆
上場市場	東京証券取引所 市場第一部（コード：4617）
売上高	（連結）88,452 百万円（2019年3月期）
従業員	（連結）2,272人（2019年3月末時点）
海外拠点 （子会社）	中国、韓国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、 インド、オランダ、英国、ドイツ、ギリシャ、イタリア、 米国等、20ヶ国に23社を展開

# 拠点・グループ会社



## ■ 主なグループ会社

大竹明新化学(株)	日本（広島）	CHUGOKU SAMHWA PAINTS, Ltd.	韓国	CHUGOKU PAINTS B.V.	オランダ
神戸ペイント(株)	日本（兵庫）	CHUGOKU MARINE PAINTS (Singapore) Pte. Ltd.	シンガポール	CHUGOKU PAINTS (UK) Ltd.	イギリス
CHUGOKU MARINE PAINTS (Shanghai), Ltd.	中国（上海）	CHUGOKU PAINTS (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア	CHUGOKU PAINTS (Germany) G.M.B.H.	ドイツ
CHUGOKU MARINE PAINTS (Guang Dong), Ltd.	中国（広東）	TOA-CHUGOKU PAINTS Co., Ltd.	タイ	CHUGOKU-BOAT ITALY S.P.A.	イタリア
CHUGOKU MARINE PAINTS (Hong Kong), Ltd.	香港	P.T. CHUGOKU PAINTS INDONESIA	インドネシア	CHUGOKU MARINE PAINTS (Hellas), S.A.	ギリシャ
CHUGOKU MARINE PAINTS (Taiwan), Ltd.	台湾	CHUGOKU PAINTS (India) Pvt. Ltd	インド	CMP COATINGS, Inc.	アメリカ

## 船舶用塗料

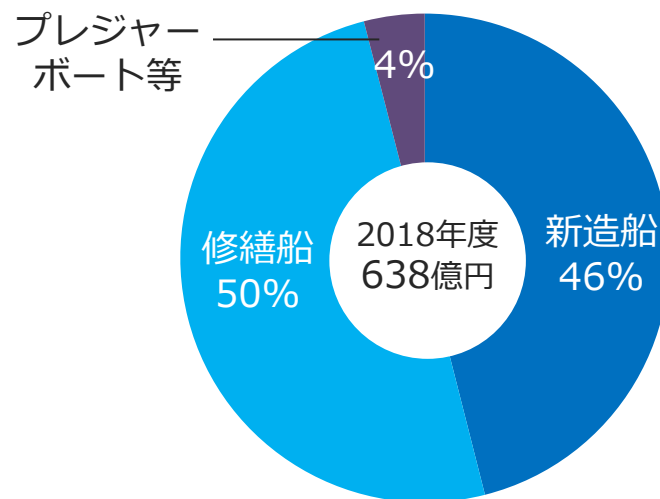
船底部を汚損から護る防汚塗料や、各種タンクを腐食から護る防食塗料など船体のあらゆる部位に応じた製品を供給しています。

日本のみならず、新造船の多くが建造される中国、韓国にも製造拠点を有するほか、欧州から東アジアに至る主要航路沿いにもネットワークを構築するなど、トップクラスのシェアを誇ります。

近年は、船腹過剰を背景に新造船建造需要が弱含みで推移していますが、世界経済の成長と海上荷動きの増加により、中長期的には増加して行くものと思われ、また船腹量の増大に伴う修繕需要の拡大も期待されます。



当社グループの売上構成



市場規模（世界）

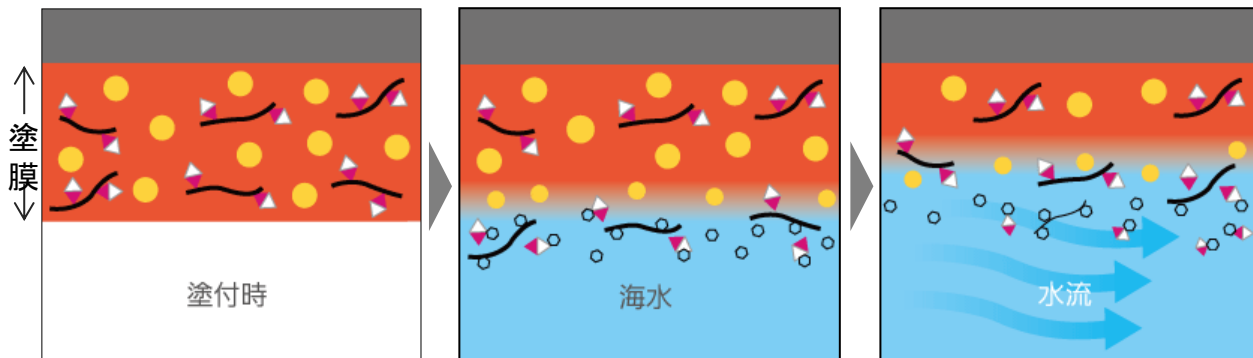
3,000～3,500億円

主なプレイヤー  
とシェアJotun（ノルウェー）、  
Akzo Nobel（オランダ）、  
当社の3社で約70%

# 船底防汚塗料（加水分解型）のメカニズム

## 加水分解型

加水分解型塗料は石鹼のように表面が溶けて更新されていくため、常に滑らかな塗膜表面を保ち、安定した防汚活性機能を持続することができるので、塗膜厚のコントロールによって長期にわたり高い防汚性能を発揮することができます。現在の船底防汚塗料の主流はこのタイプです。



防汚塗料の塗膜には、加水分解樹脂（高分子ポリマー）と防汚剤が含まれています。

海水中で加水分解して疎水性から親水性へと変化することによって、塗膜表層から少しずつ溶解して防汚成分を徐放しつつ塗膜を更新することができます。

塗膜表面を均一に更新することができるため、長期防汚性能を持続させることができます。

● 防汚剤      高分子ポリマー      ● 海水中イオン



## 工業用塗料

船舶用塗料で培った技術を活用し、フローリングや外壁等の建材用塗料をはじめ、フィルム素材・プラスチック製品向け高機能塗料、各種プラントや橋梁等の構造物用重防食塗料といった多様な製品を供給しています。

日本国内のほか、経済成長に伴うインフラ投資が活発な東南アジアの新興諸国が当社の主なマーケットです。

■ フローリング用UV硬化塗料  
(国内シェア約49%)



■ フィルム用UV硬化塗料



■ 発電所冷却水路用塗料  
(国内シェア約73%)



■ 軌道用樹脂てん充填材



## コンテナ用塗料

コンテナボックスの主要生産地である中国を中心に製品を供給しており、世界トップクラスのシェアを確立しています。

世界的に海上コンテナ輸送は増加基調にありますが、コンテナボックスの生産量は海運市況に応じて短期的には大きく変動します。

中国の環境規制強化に伴う塗料の水系化に対しても早くから技術開発を進め、高い品質で市場をリードしています。



## E : 環境

製品が持続可能な社会の実現に貢献

## 【CO2低減と省エネ】

船舶用塗料の主力製品である船底防汚塗料は、フジツボ等の海中生物の付着による表面抵抗の増大を防ぐことで船舶の燃費が向上し、CO2の低減と省エネにつながります。



燃費低減型船底防汚塗料  
「SEAFLO NEO Z」

塗膜表面の平滑性を高めることで、水中摩擦抵抗を低減。  
優れた燃費低減効果により環境大臣賞などを受賞しました。

## 【再生可能エネルギー】

海洋開発に関して大学や研究機関との共同研究を推進しており、いくつかの洋上風力発電プロジェクトに塗料メーカーとして参画しています。



## 【省資源】

塗料には、素材を腐食や劣化から守る「保護」の役割があります。

当社の塗料製品は、鉄やコンクリート、木材等をさびや腐食等から守り損失を低減することで、省資源に貢献しています。



ふっ素樹脂塗料  
「フローレックス」



チタン箔防食システム

## S : 社会

### 【地域貢献】

国内外の事業所周辺で様々な活動を行っています。



ごみゼロ大作戦 (滋賀)



構外清掃活動 (九州工場)



学校への塗料寄付 (タイ)



工場見学 (マレーシア)

### 【人材活用 (再雇用制度)】

定年 (60歳) 退職者が最長65歳まで勤務できる再雇用制度を2006年4月からスタートしています。ベテラン社員が保有する技術・技能の次世代への継承や、集積した知識の活用を図っています。

## G : ガバナンス

### 【体制】

- 組織形態 : 監査役設置会社
- 取締役の任期 : 1年
- 役員構成 : 取締役6名うち社外取締役2名 (1/3)  
監査役4名うち社外監査役2名
- 社外役員 (全員が東京証券取引所の定める独立役員)

役 職	氏 名	属 性
社外取締役	上田 耕治	大学院教授
社外取締役	西川 元啓	弁護士
社外監査役	梶田 滋	公認会計士
社外監査役	久保田 寄人	税理士

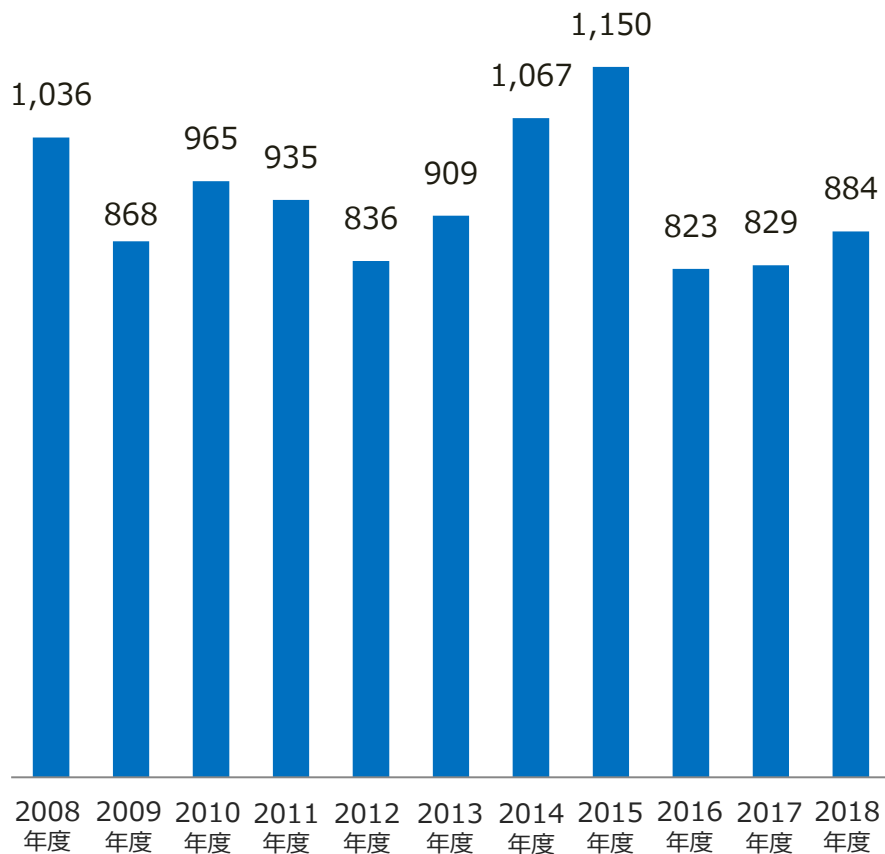
- 任意の委員会 : 指名委員会、報酬委員会を設置

### 【政策保有株式】

縮減を進める方針です。  
2018年度は3銘柄売却いたしました。

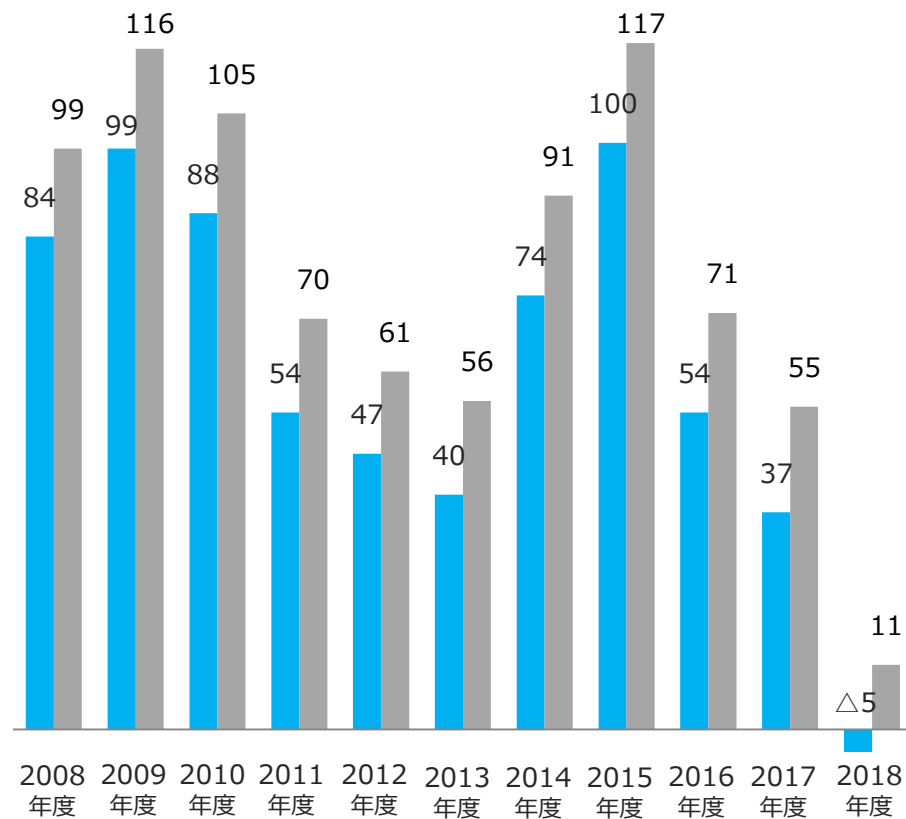
## 売上高

(単位：億円)



## 営業利益

(単位：億円)



## EBITDA